

7月26日未明に障害者支援施設「神奈川県立津久井やまゆり園」で、施設利用の重度の障がいのある方々が襲われて19人が命を亡くされました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、重ねてけがをされた方の早期のご回復をお祈り申し上げます。



田中 寛

容疑者は「重度の障がいのある方は、社会に必要な」との供述をしており、計画的で残忍な犯行に対して激しい怒りを覚えるばかりです。知的障がいのある娘を持つ父としては、被害に遭われたご家族の悲しみと苦しみの胸中を察し、ただ無念さで言葉もありません。

障がいのある方々のさまざまな転換期において、ご本人はもちろん私たち家族にとつては、悩みや苦勞の尽きない日々でした。思い悩んで泣いた日々も数知れません。しかし、自己表現も不得手ながらも、障がいに負けずに一生懸命に生きているわが

ている容疑者の残忍で異常な主張とは全く真逆で、わが子の健康や長寿とともに、社会への参加を願いつつ懸命に努力しているかけがえのない大切なわが子の成長を願い、その尊厳を支えながら見守っています。表現に個人差はありますが、

## 人権尊重し共生社会へ

### 障害のある人の安全確保を

子の姿に感動こそすれ、一度たりとも存在を否定したことなどありません。いや、それ以上に彼女が家族の一員でいてくれることに喜びと感謝の気持ちでいっぱいなのです。これは負け惜しみでもうそでもありません。

今回の事件でメディアの評論家の中には、障がいのある人を指して「社会的弱者」という表現を使う人がいます。しかし、平等の尊厳を守るためには「社会の弱者」との保護的目線で障がいのある人を特別視せずに、健全者用に作られた現在の厳しい社会ルールの中においての生活

の対応に苦難している「社会生活順応弱者」と考えるべきだと私は思っています。

障がいの有無にかかわらず、一人一人の命の重さや生きる権利は平等で尊いものですが、この事件で一番傷つき不安な思いをしているのは障がいのあるご本人たちなのです。障がいのある人が安全に安心して暮らせる社会の実現に向けて、幼児や高齢者も含め、抵抗する力の弱い人に対する残忍な行為が二度と繰り返されないために、事件をしっかりと検証し、今後に対応していかなければなりません。

沖縄県民の皆さま、障がいのある人もない人も共に人権を尊重した共生社会、つくりへの支援・ご協力をお願いいたします。

(沖縄市、沖縄県手をつなぐ育成会理事長、66歳)